足摺岬のツバキ林

足摺岬はツバキ林で知られており、冬には美しい花が咲きます。このツバキ林は完全に自然にできたものとは言えません。地域の人々が一帯の他の木々を木材として切っていった結果できたものなのです。ウバメガシは薪として利用され、メダケは壁の補強材から竹籠まであらゆる用途に使われていました。ツバキの最も価値の高い産物は種から採れる油だったため、ツバキだけが切られずに残ったのです。ツバキ油は今でも化粧品に使われています。

[キャプション]

足摺岬の散策路に沿って咲くツバキ

「ツバキのトンネル」

足摺岬ツバキ再生プロジェクト

新しい建材が使われるようになるにつれ、メダケの需要は減っていきました。成長の速いメダケは放置されてはびこり、ついにはツバキを脅かすようになりました。2016年「足摺岬の自然を守る会」、環境省、その他いくつかの団体が集まってツバキ再生プロジェクトを始めました。プロジェクトでは岬にもともと生えているツバキの種を利用して20,000本のツバキの苗木を植樹することを目指しています。

[キャプション]

種を集める > 種をまく > 苗を育てる > 苗の植え戻し (ここまでの3年かかります)

鉢上げ > 水やり > 雑草を抜く > 日除けを設置する

グラフは各年のプロジェクト参加者数を示しています。